

書名	日本考古学年報 73		著者名	編集/日本考古学協会			
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-09404-7	本体価格	¥4,000	発売	2021/12/3
内容	1948年の日本考古学協会創立以来、毎年刊行されている本年報は、我が国の考古学的動向を知るうえで、最も基本的かつ信頼度の高い学術的情報源であり、広く海外にも紹介する唯一の書である。41より小社で販売する。〈内容〉年度ごとの日本考古学界および各都道府県の動向、注目された発掘調査の概報、出版された文献目録、新指定の史跡・名勝・重要文化財一覧等を収録。						

書名	もの与人間の文化史 地図		著者名	鳴海 邦匡/著			
出版社	法政大学出版局	ISBN	978-4-588-21871-2	本体価格	¥3,000	発売	2021/12/6
内容	地図と言えば伊能忠敬を思い浮かべがちだが、正倉院には8世紀作の地図が伝わる。江戸時代以前から地図は荘園や新田・用水路の開発、検地、建築や河川改修はもちろん、沿岸警備などの資料とされ、暮らしに関わる場所の管理に欠かせない道具のひとつだった。本書は、近代的な測量技術が登場する前に作成されたものを中心に、日本の地図の長く豊かな歴史をたどる。図版多数。						

書名	聖徳太子像の再構築 00		著者名	小路田泰直、斉藤恵美/著			
出版社	敬文舎	ISBN	978-4-906822-45-4	本体価格	¥1,818	発売	2021/12/8
内容	日本の聖地として、日本人の心の拠所として繁栄を続けた奈良。その奈良の聖地化にとっては、天武朝以降の聖徳太子信仰の広がりが決定的な役割を果たしたと思われる。その意味で、聖徳太子一四〇〇年遠忌の年に、奈良女子大学が聖徳太子について何も語ろうとしないのは、かえって不自然だと考えたのである。						

書名	日本人なら知っておきたい！ 神様と仏様事典		著者名	三橋健・廣澤隆之/著			
出版社	青春出版社	ISBN	978-4-413-09792-5	本体価格	¥1,000	発売	2021/12/10
内容	神社での拍手は何のため？ 春日大社にはなぜ鹿がたくさんいるの？ お寺のお参りに数珠が欠かせない理由は？ 仏様の髪の毛はなぜ丸まってる？ 奈良や鎌倉の大仏様はどうしてあんなにも大きいのか？……知ってるようで知らない、いまさら聞けない神様・仏様そして神社・お寺の疑問が、この一冊でまるごとスッキリ！ 一家に一冊、神様・仏様の全てがわかる決定版。						

書名	仏師から見た日本仏像史			著者名	江里 康慧／著			
出版社	ミネルヴァ書房	ISBN	978-4-623-09333-5	本体価格	¥2,800	発売	2021/12/14	
内容	平安時代中期にその後の仏像の祖型を完成させた定朝、鎌倉時代に最高峰を極めた運慶と快慶。今なお模範であり続けるこの仏像群は、現在の仏師の目から見てどう映るのか。仏師として長い経歴を持つ著者が、インドにおける仏像の濫觴から日本の慶派に至るまでの流れを通観しつつ、独自の視点で新たな日本仏像史を描き出す。							

書名	Japan Brand Collection 2022奈良版			著者名				
出版社	メディアパル	ISBN	978-4-8021-5533-5	本体価格	¥1,091	発売	2021/12/15	
内容	「Japan Brand Collection 2022 奈良版」には奈良県に住んでいる方や訪れる方にとって本当に価値ある情報が溢れています。本物を知り体感することで、より潤いのある時間を過ごせるでしょう。今まで知らなかった素晴らしいモノやサービス、一流の料理と上質な空間は、私たちに感動や満足感を与えてくれ、私たちの人生をより豊かにします。奈良県の名門料理店や高級ホテルを始め贈答品・ファッション・ヘアサロンなど様々なジャンル一流店の情報が美しい写真と文章で編集されています。							

書名	仏神と建築			著者名	山岸 常人／著			
出版社	法藏館	ISBN	978-4-8318-6267-9	本体価格	¥9,000	発売	2021/12/20	
内容	宗教史において寺社に関する文字史料が重要であることは当然であるが、加えて具体的な「物」を史料として扱う可能性が広がりがつつある。寺院・神社の建物を史料として捉え、建物を廻る仏神の歴史について考察した論考を集成する。							

書名	中世かわらけ物語			著者名	中井 淳史／著			
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-05940-4	本体価格	¥1,900	発売	2021/12/20	
内容	中世に誰もが使っていた日用品・かわらけ。遺跡から大量に出土するこの薄茶色の器は地味に見えるが、それぞれに個性があり中世社会を雄弁に語る遺物である。製法や工人、使用方法、販売価格、デザインの流行などを読み取ると、地域や身分を超えて人びとの暮らしに寄り添ってきた実態が見えてくる。身近なモノを徹底的に見つめて描きだす文化史。							